

# ローカル5Gを活用した院内外の次世代薬剤トレーサビリティ 及び医療従事者の業務改善の実現

<b>実施体制</b> <small>(下線：代表機関)</small>	東日本電信電話(株)、群馬大学、(株)ユヤマ、ウルシステムズ(株)、PHC(株)	<b>実施地域</b>	群馬県前橋市 (群馬大学医学部附属病院)
<b>実証概要</b>	医療現場においては、医師や看護師の <b>人手不足</b> が生じている一方、医療の高度化と複雑化に伴う <b>医療インシデントのリスク増大</b> に直面。特に、 <b>インシデント発生数全体のうち4割は薬剤に関するもの</b> という課題が存在。 ➤ 病院にローカル5G環境を構築し、AI・薬剤自動認識装置を搭載した自立走行型ロボットによる、 <b>患者持参薬の確認</b> 及び <b>処方薬の配薬・服薬確認</b> の実証を実施。 ➤ 院内外の次世代薬剤トレーサビリティを通じ、 <b>医療従事者の業務効率化</b> 及び <b>安心安全な医療サービスの提供</b> を実現。		
<b>技術実証</b>	➤ 複数種類の遮蔽物が存在する <b>病院における建物侵入損</b> に着目した電波伝搬モデルの精緻化や、病院内の不感地帯改善を目的に <b>分散アンテナシステム</b> を活用したエリア構築を実施。 ➤ 周波数：4.8-4.9GHz帯（100MHz） 構成：SA方式 利用環境：屋内		

## 患者持参薬の確認



## 処方薬の配薬確認



## 処方薬の服薬確認

